

日本の社会にこころの健康セーフティネットを



第25回年次総会懇親会@AP西新宿

EMCA機関誌 Cor -こる-

Cor(こる)……ラテン語でこころを意味する言葉

No.25

2025. JUL.

EMCA 第12回 年次総会

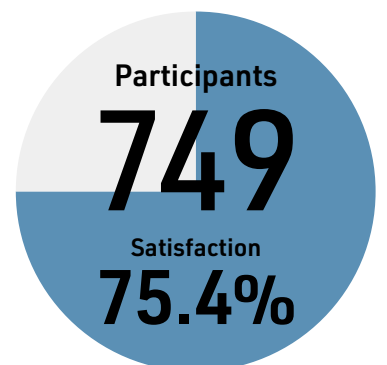
(2025.06.14)

特集

- 2024年度報告・25年度計画
- EAPメンタルヘルスカウンセラー活動コンテスト2025
- EMCA全国支部会第3期2024年度活動報告
- 2つの研修会
- 懇親会・参加者の声

EMCA®

発行:NPO法人 EAPメンタルヘルスカウンセリング協会



749名 … Participants (総会参加者合計/委任状含む)
75.4% … Satisfaction (総会への満足度)

EMCA沿革 設立12年の歩み 2013-2025

2013年 04月 第1期中期事業計画策定（2013-2015年）＜テーマ：eMC資格制度発足＞
 2016年 04月 第2期中期事業計画策定（2016-2020年）＜テーマ：研修制度の整備拡充＞
 2021年 04月 第3期中期事業計画策定（2021-2025年）＜テーマ：支援実践活動の強化＞

◎第3期中期事業計画の進捗

2021年 04月 初期研修制度開始（受講義務化）
 2021年 07月 EMCA全国支部会発足
 2022年 12月 日本EAP協会加入
 2023年 04月 eMC正会員数1000名・総会員数3000名に到達
 2023年 05月 Mezzanine（メザニン）オープン EMCA運営協力
 2023年 06月 第21回eMC資格認定試験実施 1次（学科）試験開始
 2023年 08月 協会設立10周年記念事業「eMC100人の物語」本刊行
 2024年 07月 EMCA全国支部会 西日本・神奈川支部を分割して4支部制に拡充
 EMCA職能部会発足・ブランディング委員会設置



オンライン参加はおよそ220名



当日会場参加は約70名



理事長の発表を熱心に聴く会員の皆さん



理事メンバー：（右から）松田理事長/石川理事/嶋田理事/杉尾監事

EMCA＞これまでの歩み II

◎第3期 中期事業計画策定 2021年～25年

主事業：研修強化及び対人支援NPOとしての実践活動の強化

2021年04月 初期研修制度（受講義務化）開始

2021年07月 EMCA全国支部会発足（地域別）

2022年12月 日本EAP協会加入（外部機関連携を強化）

2023年05月 mezzanine（メザニン）オープン（運営協力）

2024年07月 EMCA職能部会発足（機能別）



NPO法人 EAPメンタルヘルスカウンセリング協会(EMCA)

第12回 EMCA年次総会のご報告

2025年6月14日（土）、第12回を迎える年次総会が初めての会場「AP西新宿」で開催されました。会場＆オンライン参加のハイブリッドスタイルはいまや定番となり、今回も300名を超える会員の皆さんにご参加いただきました。盛りだくさんだった1日をご報告します。

第3期テーマは支援実践活動の強化

2021年から開始された第3期中期事業計画のテーマは、会員の皆さんの「支援実践活動の強化」です。
 第1期は「資格の創設と試験の実施」でした。第2期はそれを受けて「研修制度の整備拡充」が順次テーマとしてありました。体系的な研修体制の構築のなかでできたのが、2019年から開始された「初期研修制度」でした。

個人の資格への想いとしても、「資格は活かしてこそ」というのがあります。eMCはNPO法人が実施する民間資格です。ですが「たかが民間資格、されど民間資格」です。EAPを学び、資格を取得し、研修を続けていくなかで本当の実力を蓄え、機会をつかみ、さまざまな現場で活躍する事例が年毎に増えていることを実感しています。

大学での学生支援、企業での従業員支援、オンラインカウンセリングサービス（mezzanine）での実践など、活躍の場が広がっています。また、EMCA全国支部会での活発な活動もあいまって、資格を活かす場は多重的・複層的になっています。

資格取得後の最初の一步が踏み出せない、という声も頂戴します。確かに、多くの現場で実務経験が求められていることも事実ですが、これは第4期中計の重点テーマとして、今後取り扱う予定です。その先行事例として、昨年度に東京都の教職員を対象としたアウトリーチ支援での、延べ5000ケース以上の面談実施は、協会並びに会員の皆さんにも大きな実績となりました（詳細はCor24号参照）。

今後とも協会として、会員の皆さんの「はじめの一步」を踏み出す機会創出と拡充に、全力をあげるつもりです。多忙な日々のなかで時間を割いて学んだのですから、資格を取得するだけでなく、活かしてこそ本当の資格の

価値と学ぶ醍醐味があるのではないのでしょうか。協会は可能な限り伴走していきたいと思っています。

EMCA組織運営面の課題について

NPO法人として、EMCAが会員の皆さんの活動支援を継続・強化することに疑いはありません。一方で、この8月で発足12年を迎える協会にも課題は山積しています。一言で言えば、組織力・地力が足りていないということです。また、不足だけでなく、なかなか成長できないという課題があります。2024年にEMCA全国支部会を設置した狙いの一つは、全国各地での会員活動の支援を、全国支部会の力を借りて推進していきたいというものの想定を超えて、地域の会員の皆さんの力が結集して、大きく花開こうとしています。今大会で予告した、EMCA評議員会の2027年の設立は、さらにこうした動きを進めるものです。会員から推挙された評議員の組織を作り、そこから会員の声を最大限に協会本部に届けていただく仕組みを構築しようというものです。さらに、評議員会から理事を任命いただき、協会の理事会に参加いただくことで、よりダイレクトに会員の皆さんの声が協会運営に直接届く流れができると考えます。

同時にEMCAが（会員の皆さんに）「開かれたNPO・組織」を今後も維持・発展させるためには、EMCA評議員会は必須で、理事会への参加は、こうした運営方針を堅持する役割を果たせるでしょう。

協会の課題は、組織運営面に加えて、協会の収益確保もあります。従来のような会費収入・研修収入によるだけでなく、事業活動を企画し、事業収入をあげていくことも必要だと考えています。さらにその前段階として、事業を推進する人材の確保にも大きな壁があります。適切な事業収入を確保できれば、現在の研修費や会費を低減することも可能となります。

2026年度から始まる第5期中計では、こうした組織課題も見据えながら取り組みを進めたいと考えています。誤解を怖れずに言えば、「日本一稼ぐNPO法人」を実現して、社会にインパクトを与えられる団体になりたいものです。

EMCA理事長 松田直之



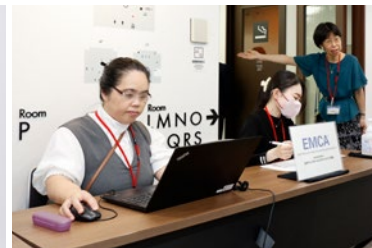
今回も多くの賛成で採決が成立

6月14日（土）／TIME TABLE

10:00～11:00 第12回年次総会
 11:00～11:35 EAPメンタルヘルスカウンセラー活動コンテスト2025
 11:40～12:30 EMCA全国支部会第3期活動報告
 13:30～15:00 研修会
 15:15～16:00 懇親会



総会の司会進行は秋谷理事



「どうぞこちらへ!」受付ではサポーターさんが大活躍



新たな会場となった「AP西新宿」

2024.07～2025.06

EMCA全国支部会 第3期報告

東京
支部



支部長 渡辺 賢二さん

安心して参加できる
「場」を届けられた

第3期の前半が過ぎました。自己採点は70点、多くの方が支部の活動にはじめの一歩を踏み出していたできたこともあり、皆さんが安心して参加できる「場」を少しはお届けできたかな、との思いと、一方で、まだまだやりたいこともやり残したこともあったな、との思いが1年間の振り返りです。これまでイベントの参加者アンケートにお寄せいただいたご要望から「聴いて学ぶ」「体験する」「交流する」という3つのキーワードを選び、2年目の活動としてさまざまな企画を検討中です。

初の試みとして昨年開催して好評だった「ぶっちゃけトーク」や「心理系カードゲーム教材体験学習会」は2年目も続けていきますし、新たに「カウンセリング企画」や「シン

ポジウム／パネルディスカッション企画」、さらには「他支部とのコラボ企画」なども準備中です。加えて「屋外活動（お散歩、森林浴）」や「ヨガ・座禅」といった、内面の気づきや心の静寂に注目した新たな企画にもチャレンジしてみたい…そんな話を役員会でワイワイ話し合っています。

昨年から始めた「役員会オプザバー」は今後も継続しますので、ぜひ一度見に来てください。企画持ち込みも大歓迎、支部役員、サポーターは随時募集中です！皆さん、支部活動を一緒に考え、作り、それぞれご自身のペースで楽しく学びながら前へ進んでまいりましょう。



分類	項目	企画、テーマ、キーワード
セミナー・勉強会	外部講師等によるセミナー、パネルディスカッション、シンポジウム等	人との向き合い方 医療関係者 消費者 土曜の先生
ワークショップ・交流	会員同士の持ち寄り企画、カウンセリング等 カードゲーム等を使った気軽に参加できる勉強会 屋外での活動	5V対5Vロープレ 動画視聴と意見交換 森林浴、お散歩 屋外でカードゲーム 座禅、ヨガ
活動の輪	夢野哲郎の読大 サポーター研修 支部統一活動企画	読大へ180名の参加 役員と会員の信頼関係 支部間の交流

リカレント新宿の大教室が満席！カードゲーム教材体験学習会は笑顔と活気に溢れています。

関東支部は、「繋げる・深める・知識のその先へ」を活動方針として運営しております。カウンセリングセッションチームと勉強会チームの2つから構成され、今年度は2チーム合わせて15回の企画を開催、全国から延べ180名の方にご参加いただきました。参加者は関東支部会員様と全国支部会員様がちょうど半分ずつと、バランスの良い構成になっております。これもひとえに向上心の高い熱心な会員の皆様、全国支部会役員の皆様、影日向で支えてくれた関東支部役員の仲間のおかげと思っています。

カウンセリングセッションとは、カウンセリングの実践スキルを磨きたい会員さんからの、「カウンセラーだつて聴いてほしい」「カウンセラー

横の繋がりが
一気に強くなった年



支部長 高橋 和裕さん

同士だからこそ、安心して話せる場が欲しい」という声が集まり、2022年度からスタート。クライエントとカウンセラー両方を体験することで視点の変化や、カウンセラー同士での関わりによる気づきを得、スキルアップや内省に繋げていただく学びの場です。

勉強会チームは今年度勉強会を3回開催。リラックスして気軽に話せる「関東支部サロン」も2回開催しております。勉強会は500円。関東支部サロンは無料のご案内でした。2024年度は全国支部において横の繋がりが一気に強くなった年でもありました。全国支部会の今後の可能性に大きな手応えを感じております。



EMCA関東支部 2024年度 実績報告書
☆「カウンセリングセッション」9回開催 参加人数66名
☆「気づきの広場」1回開催 参加人数13名
☆気軽に話せるしゃべり場「関東支部サロン」2回開催 参加人数32名
☆勉強会3回開催 参加人数65名

知識をつけながら仲間の繋がりを大切にする場をたくさん提供。PRにも注力。

神奈川
支部



支部長 山田 道雄さん

「Join us」をモットーに
“ならでは”を

神奈川支部は2024年の設立初年度、「Join us」をモットーに、出会いや学びが生まれる場づくりに取り組んできました。9月の活動説明会では、支部のモットーや年間の取り組みを紹介し、参加者同士の交流の場を通じて新たなつながりが芽生えました。

10月以降は、会員による全6回の研修会を実施。障害福祉や脳科学、AIトセラピー、エゴグラム、NLPなど多彩なテーマを扱い、他支部の仲間も含め、延べ110名にご参加いただきました。12月にはボーリング大会と懇親会を開催。初対面同士でもすぐに打ち解け、会員同士のつながりを実感し、今後の可能性を感じられる素敵な会となりました。1月のロールプレイ会では、「実践の場が自信に繋がった」との声もあり、少人数ながら意義深い学び

活動実績 (サマリー)		年間のべ参加者: 「252名」									
活動内容	実施回数	6月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
活動説明会	4回 (46名)	9回 (81名)									
会員による研修会	6回 (110名)		10回					20回 31名	6回 14名		9回 1名
レクリエーション (ボーリングと懇親)	1回 (17名)					12回					
ロープレ会	1回 (11名)					1回					
交流会 CoCoトーク	12回 (79名)		1回 18名	12回 9名	1回 10名	2回 23名		3回 37名	6回 16名	5回 59名	
会員の交流の場である「CoCoトーク」を中心に活動											



1県という神奈川支部ならではの強みを生かした野外活動や、興味深い体験型イベント、気軽なおしゃべり空間「CoCoトーク」と盛りだくさん。

西日本
支部



支部長 齊藤 美和さん

支部活動を身近に感じてほしい

西日本支部は1期から大切に引き継いできた「支部会員同士が認め合い、ともに成長をめざそう！」を活動ポリシーに、静岡以西30府県+海外の大変広いエリアで活動を展開しています。3期より「活動通信WEST」をメルマガとして随時発行し、活動案内・報告や業界情報、役員の「今日の小ネタ」などで支部活動を身近に感じていただけるよう工夫しています。

また、セミナーなどに参加しやすいよう、オンライン開催を軸としつつ、西日本エリアでリカレント講師陣による「リアルセミナー」を開催し、講師や会員同士のコミュニケーションの場もセッとするよう努めています。産業界や「話を聴く」プロによる外部講師セミナー、会員による会員のための勉強会など、3期1年目は8回セミナー・勉強会を開催し、約260名の方にご参加いただきました



西日本支部3期 2024活動実績	
活動内容	11/24：中野 貴一様「認知症の予防」 4/18：松久 美子さん「EMCの活用と学び、そしてこれ」
リカレント講師	3/15：石川 雅子先生「今、知っておくべきこと」 3/6：佐藤 佳代先生「作業療法士が伝える入居のヒント」
外部講師	12/21：Linda(露) 有馬 裕子先生「認知症予防」 9/15：(株)心と脳健康センター 代表取締役 岸本 直也(佐藤)「EAP」産業医と連携する人-メンタル健康-
活動回数	10/20：東海カウンセリング・会員同士500-プレ研修会
活動人数	9/8：愛知県弁護士会青年部活動+EMCA 西日本支部

※後援に
自民党、公明党、
民進党、
日本共産党

※協賛



有識者を招いてのインパクトあるセミナーや手作りのメルマガ…。工夫と熱量で30府県+海外という広大なエリアをカバー！

た。また、多くの皆さまにご参加いただけるよう、いずれのセミナーも全支部へ開放した結果、全参加者の約20%が他支部から参加いただき、エリアを跨いだコミュニケーションを図ることもできました。

3期2年目となる2025年度も、ポリシーや活動方針を継続しつつ、より多くの方に興味を持っていたけるような機会をご提供できるよう、役員一同、力を合わせて取り組んでまいります。会員の皆さまもぜひ一緒に楽しみながら、支部活動を盛り上げていきましょう！皆さまのご参加を心よりお待ちしております！



(上)「おもてなし講座」の研修会場では、4人グループで和気藹々と複数のワーク・ディスカッションに取り組みました。
(右)「倫理研修II」の会場では、講義に集中して聴き入る皆さんが印象的でした。



2つの研修会 13:30～15:00

今年の研修会はA・Bと2つのテーマでハイブリッドで開催。自由選択でしたが、もう一方の研修も後日映像版で学習可能と、フォローも万全です。石川先生・野間先生による専門的な講義やグループディスカッションなど、終始熱のこもった90分となりました。

B. 「おもてなし」講座

講 師：野間 貴大先生
受講者：224名



Profile
精神保健福祉士・公認心理師・キャリアコンサルタント・八幡メンタルクリニックリワーク統括

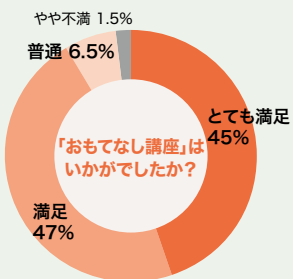
クライアントに「この人なら安心して話せる、また聴いてもいい」と思ってもらえる言葉や時間とは？ 温かな空間を創り、おもてなしのこころを提供できるカウンセラーの振る舞いや接し方を、たくさんのボキャブラリーとともに学びました。「全事業所にストレスチェック義務化な

ど、産業精神保健が注視され、EAPへの期待もますます高まっています。それも反映してか、知識量を増やしたい、実践力を磨きスキルアップしたいという、皆さんのリカレント時代と変わらぬ自己成長意欲を改めて感じました。この研修の主題は傾聴姿勢。今一度、クライアントに耳・心・体を澄まし、聴くことの大切さを再認識して、支援に努めていきましょう」と野間先生。

カウンセリング力の向上は人間性を高めることと切り離せません。カウンセラーとして自信を持つて最高のおもてなし支援ができるスキルを、これをきっかけに磨いていきたいと思います。

みなさんの声

- ただ座学として聞くだけの時間ではなく、インタラクティブで面白く楽しく、それでいて学びになる、大変有意義な時間でした。
- 自分では気づかなかったことを言葉にしていただき、よかったです。
- 先生のインパクトはあれ、改めて初心に帰って面談やカウンセリングのマインドセットにフォーカスした内容で、非常に有意義だった。
- オンラインだったので臨場感や学びを共有した空気感を感じることができなかったが、先生のユーモアとリズムで楽しく学びました。



A. 倫理研修II特別編

講 師：石川 裕理先生
受講者：114名



Profile
臨床心理士・公認心理師・麻布PIASカウンセリングセンター所長・EMCA理事

「近年、倫理にまつわる社会状況の大きな変化とともに倫理の捉え方も変わり、人との距離感が難しい時代に入ったと肌身感じます」とおっしゃる石川先生が今回、セクシュアルハラスメントをテーマに、いまの時代に合わせた倫理の考え方を問題提起・指導くいただきました。周囲で起こりがちな事例を

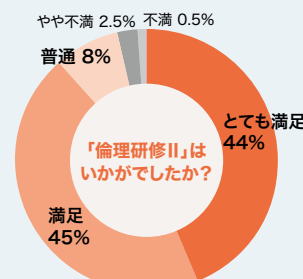
グループ検討も交えてディスカッションし、アップデートされた倫理観を学びました。

「今回の研修で会員同士のいまの時代の倫理観に基づいた適切な距離感の保ち方のヒントを得たり、専門職として周囲への啓蒙が大切という理解を持てるように。カウンセラーとしてセクハラ被害で傷ついている女性クライアントに正しく対応するためにも、常に意識高く考え、行動していきましょう」と石川先生。

カウンセラーとして感性を磨き、支援者としての倫理観を最適化することは非常に重要なことです。ますます広がるEMCA支部会活動にも、今回の学びを活かしていきたいと思います。

みなさんの声

- 実際に起こりうる事例について考えることができ有益だった。
- 石川先生のお話はいつもわかりやすく、目の覚めるもので大変勉強になります。
- 今一度カウンセラーとしての姿勢を自問する機会になりました。
- セクハラについて皆さんの意見を多角的に聞いたのは、とても良かった。啓蒙活動が大切であることがわかりました。
- 客観性と判断力が損なっていないか、自分自身と向き合うきっかけになりました。



優秀実践賞
高橋 和裕さん
(株)メディアミックス代表

特別賞
木暮 枝里さん
鉄道業界人事部人材育成課

最優秀実践賞
武田 雄一さん
人材育成コンサルタント

優秀実践賞
生駒 伸江さん
学校運営協議会委員・PTA役員

優秀実践賞
中鉢 梨沙さん
心理カウンセラー

EAPメンタルヘルスカウンセラー活動コンテスト 2025

表彰式

年次総会のハイライトとしてお馴染みの企画が2年ぶりに復活！
今回は初めて、優秀実践賞が3名に拡大しました。そのすばらしい取り組みに「勇気をもった」「自分の活動のイメージが持てた」といった多くの声をいただきました。



その一歩を前へ

このコンテストは、会員の皆さんがeMC資格をどのように仕事や生活に活かされているか、優れた実践をされている方々の活動を公表し共有することで、eMC皆さんのロールモデルとなったり、活動のヒントを得られたり、皆さんが新たな一歩を踏み出すきっかけとなることを願って開催してきました。

今回は、5名の受賞者に松田理事長と石川理事から賞状と記念品が授与され、一言ずついただきました。EAPのスキルをフル活用しての職場支援、EMCA全国支部会での会員のための場づくりの努力、地域社会への貢献と、受賞者の活動はどれも素晴らしいものでした。eMC資格の活かし方は、会員の皆さんの良いロールモデルとなることでしょう。

表彰式の後、最優秀実践賞の武田さんに「東京都教職員アウトリーチ型支援」の活動を中心にお話をいただき、オンラインの画面の向こうにいる300人以上の会員の皆さんにも、課題の多い教育現場の様子や、教員への支援にかける思いを熱く語っていただきました。

武田さんが大活躍している、このアウトリーチ支援のカウンセラーは、eMC初期研修を修了された方ならば、これからでも応募が可能です。皆さんもぜひ武田さんの後に続きませんか？そして、活動コンテストは来年も開催します。「次こそ自分が！」という皆さんからの頼もしいエントリーをお待ちしています。

みなさんの声

資格を活かし、支援に熱く取り組む姿に、勇気をいただきました。

エントリーには自分からは手を上げにくかったので、他者推薦があると嬉しいです。

どんな活動を、どんな気持ちでされていたのか聴けてよかったです。モチベーションが上がります。

自分にできることはなんだろう、と考えることができました。

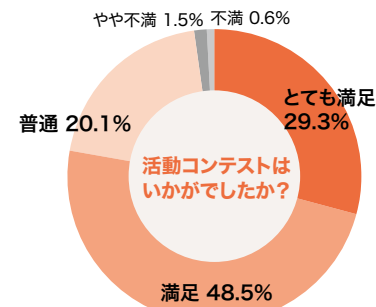
時間的制約があると思うが、もう少し具体的なエッセンスを受賞者に語っていただきたかった。

日頃の努力や小さな積み重ねを評価してくれる場があることは、素晴らしいと思った。

最初の一歩を踏み出す背中を押していただける内容でした。これから頑張ろうと思いました。

eMCは、やはりとても素敵な資格であることを実感しました。

最優秀賞を受賞された武田さんからの「小さな一歩を踏み出す」とのメッセージが印象に残った。





Q1 総会はいかがでしたか？

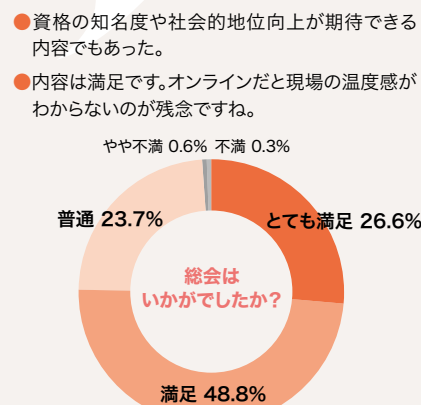
- 松田理事長の熱い想いが伝わり、会場参加してよかったと思いました。
- 受賞者の方のスピーチが素晴らしく、感動した。
- 理事長のお話はいつも初心に返ることができ、刺激をいただける。また支部活動の素晴らしい発表や、資格を活かされている方のお話もとても刺激になった。
- 前回同様とてもエネルギーと、これからの楽しみをいただきました。
- 今後の協会の展望を考えつつ、深められ、会員に還元しようと考えられていることを嬉しく思いました。
- 議案の報告内容がわかりやすかった。進行もスムーズでした。

- 身近で理事長の想い、受賞者や支部長が頑張っているお話を聴くことで、EAPを学べてよかったと感じました。
- 昨年度は活動や研修に参加できていなかったから、気持ちを新たに取り組もうと思った。
- 松田理事長の1年に一度の熱いトークを今年も聴けて嬉しく思います。あと、活動コンテストはやっぱりあったほうがいいですね、刺激になります。
- この資格を持つ皆様が、どのような思いで、どのように活動されているのかを感じることができ、力をいただきました。
- 簡潔に要点がまとめられて進行がスムーズだった。時間配分も適切だった。

第12回年次総会参加者



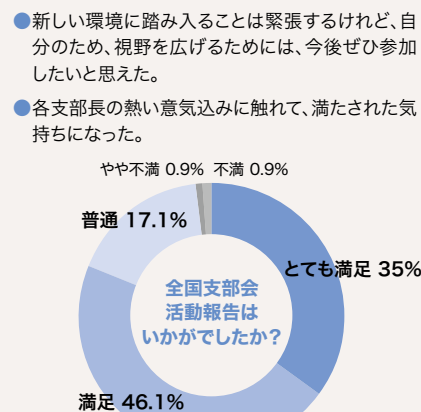
会場＆オンラインで参加された
350人以上のアンケート回答から抜粋して
皆さんの声をお届けします。



Q2 全国支部会活動報告はいかがでしたか？

- 各支部がそれぞれ工夫をされているのが、とても印象的でした。
- それぞれの特色ある活動がわかってよかった。他支部のイベントもぜひ参加してみたい。
- それぞれの地域でどんな考えで活動しているか、1年に1回でも総括発表の場があることは、活動への理解が深まり、よいです。
- このeMC資格やEMCAが支部会のさまざまな支援活動で支えられていることに感謝し、学びへのテンションが高まりました。
- 役員皆さんお仕事をされながらご尽力くださり、本当に感謝です。今後も積極的に参加していきます。

- 支部のそれぞれの個性ある活動や、支部長さんたちのお人柄が伝わり、よかった。
- 年々活動内容がバージョンアップしていてすごい。多忙でなかなか活動に参加できないのが悔しいが報告を聞いて、いずれ参加したい！するぞ！という気持ちを抱けた。
- 活動の大変さがとても伝わりました。役員の方さま、ありがとうございます。
- 4つの支部会の活動内容や人となりがわかり、いろいろなセミナーや懇親会、異業種交流会など、よく工夫されていて、それぞれ魅力的に感じました。
- 普段メルマガは読み飛ばしてしまうので、直接お話を聴けると面白いです。

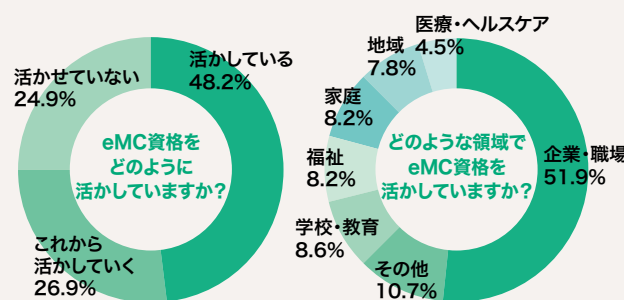


Q3 eMC資格をどのように活かしていますか？

- カスタマーサポートで、お客様の悩みに共感、リフレクション、要約をすることで、信頼関係の構築に活かしています。
- 職場内で部下との面談や、日常のコミュニケーションをとる際など、カウンセリングの知識を活かしながら会話できている。
- 日々、社員からの相談等を受けるなかで、学んだスキルを活かして話を聴き出すようにし、産業医や心理士等に繋ぐようにしています。
- 人事部員として社員との面談やハラスメント相談員としての面談で活用中。
- 職場復帰したばかりの方への接し方と、休職中の家族への接し方に活かしている。
- 自称社内EAPとして、提携カウンセラーと社員のブリッジを担うようにしている。

- 市の移住相談に傾聴スキルを活かしています。家庭では息子たちに心の仕組みをわかりやすく伝えたり、自分が心的に疲れるときは自己分析をすることで深く悩みにはまることがなくなりました。個人的にメンタルヘルスのブログで学んだことを発信しています。
- チャット相談、職場で非公式カウンセリングをやっている。
- 社内でも相談窓口を立ち上げ、これから資格を取る方のサポートをしている。
- NPOでサークル活動などを行っています。
- 生活保護受給者の就労支援に。

- 地域若者サポートステーションでの相談業務に。
- 高齢者との面談に傾聴はとても有効。
- SNS相談員として相談業務に携わっている。
- 電話相談や従業員の問題を経営層へ意見するとき、学んだ知識を使っている。



懇親会

15:15~16:00

コロナ禍でしばらくできなかった懇親会が復活！
カジュアルなおしゃべりや情報交換の楽しい時間を
過ごしました。



書籍の抽選会で野間先生が
アタリを引いた？！



会場はこんな様子でした。
ささやかながら楽しいひとときを！

タレントみたいな石川理事と
野間先生のツーショット

EMCAで出会えた仲間は
なんだか特別

久しぶりの懇親会は、来場参加の皆さんとオンラインとで開催しました。会場には約70名、オンラインでは研修会AとBに分かれて100名近くが参加、45分ほどの交流を楽しみました。

リラクセスして話せる場合は、会員同士の絆も深まり、なんともいいものです。会場は石川理事による「乾杯！」に始まり、テーブルを囲んで皆でおしゃべり・情報交換を楽しみました。オンラインでは、研修会の感想や得た気づきを共有しました。

書籍の抽選会も行われ、会場は大盛り上がり。支部ごとに記念撮影もして、フロアには明るい笑い声が絶えませんでした。最後は大集合して、この「Cor 25号」の表紙撮影！ 支援NPOらしい温かな一体感に包まれました。

会員同士のつながりが強くなり
EMCA協会の一体感を感じた
ひととき



「限界」からの再出発

リカレントの門を初めて叩いてから、早いもので5年が経ちました。学ぼうと思ったきっかけは、私が「抑うつ状態」と診断されたことにあります。大学卒業後は、資格取得が必要な道を志していましたが、試験には数点届かず失敗。内定も白紙になり、生活の見通しが立たなくなり、孤独と不安のなかで1年間再挑戦しましたが、結果は惨敗。就職したエステサロンでも心身に不調をきたし、わずか1カ月で退職。不眠や食行動の異常、自傷行為など、さまざまな症状に苦しみました。

退職後は地元に戻り、通院と引きこ

どん底を知っているから、今度は誰かの光になる。
私の挑戦は、ここからが本番です。



もりの生活へ。約2年間の記憶が曖昧なほど、心身共に限界だったと思います。社会復帰のきっかけは、偶然耳にした「もう面倒見きれない」という、お世話になっていた方の言葉でした。「出ていかなきゃ」と思い、そこからアルバイトを始め、次第に派遣社員として働けるまでに回復しました。寮付きの職場で自立の一步を踏み出し、ようやく再出発して自立への一步を進めることができました。

学びを活かして独り立ち

この経験からメンタルヘルスへの関心が高まり、リカレントでの学びが始まりました。eMC資格を取得した後

こころの声を聴く旅

それはまさに「先生たちの心の声」を聴く旅でした。当初は「カウンセリングスキルを磨くため」と考えて始めた活動でしたが、実際に教育現場で向き合ったのは、想像以上に重く悩みを抱えた先生たちの姿でした。先生たちの「理想」と「現実」の狭間。

「尊敬する先生に出会って教師を志した」「子どもたちの成長を見るのが嬉しい」。そう語る先生たちの笑顔の裏には、授業準備、保護者対応、クラブ活動に追われ、理想とかけ離れた現実に苦しむ姿がありました。「子どもたちのために頑張らなきゃ」「完璧でなければ」と自分を追い込み、笑顔が消えて、ため息と疲

労感ばかりが増えていく日々……。

「こんなこと、誰にも話したことがなかった」と漏らす先生を見て、私は次第に、先生たちの悩みは表面的な問題ではなく、根本に「本当の気持ち」に気づけていないことにあると感じるようになりました。

「保護者対応がしんどい」の裏にあるのは、信頼されたい、という思いかもしれない。でも、その本音を口に出せず、「疲れた」「もう無理」としか言えない先生も多くいました。そして、「子どもたちのために頑張らなければ」と自分を追い込み、無理をして自分をすり減らしていく。先生たちは、「理想の教師像」という目標に縛られ、本当に大切にしたいものを見失っているように感じました。



「ほっとできる時間」を届ける挑戦

最優秀実践賞

武田 雄一さん

Yuichi TAKEDA

㈱キャリアポートレイ代表。人材育成コンサルタントとして個人と組織の成長に貢献することを使命とし、キャリアとメンタルを統合したバラエティ豊かな支援活動をしている武田さん。東京都のアウトリーチ支援に長野県から新幹線で通い、昨年は293回もの面談を担当しました。

聴くだけで終わらせない

相談で私が大切にしたのは、「話を聴くだけで終わらせない」先生たちが「これから自分のことを話しても大丈夫」と感じられる安心の場で、自分の本当の気持ちに気づけること。そのために「受容共感的に聴く・感情へのアプローチ・気づきのきっかけ」を大切にしてきました。

「どんなときに子どもたちが喜んでいいると感じますか?」「自分にとって、いい先生とはどんな先生ですか?」「もし、今日一日自由に過ごせるなら何をしますか?」こうした問いかけを通じて、多くの先生たちが「自分が本当に大切にしたいもの」に気づき、言葉にしてくれました。先生たちが一番求めているのは「解決策」ではなく、「安心して話せる場」なのだと、強く

優秀実践賞

中鉢 梨沙さん

Risa CHUBACHI

ご自身のつらい体験からメンタルヘルスを学び、現在ではカウンセラーを本業として有名女性誌にも取り上げられるほどの活躍ぶり。関東支部役員としても精力的に活動中の中鉢さん。見事なレジリエンスと、どんどんステップアップしていく頼もしさで、優秀実践賞に選ばれました。

は、人材派遣会社の管理側へ異動し、職場環境を変えることに尽力しました。匿名の窓口相談の設立、電話やチャット相談の確立等に取り組みしました。一足飛びに変えることはできませんでしたが、少しずつメンタルヘルスの取組みと考え方が社内浸透していったかと思えます。

しかし、その後、同職場でハラスメントに遭ってしまったことで計画的に休職・退職。2025年より個人事業主として税務署に開業届を提出して、働いております。

現在は、数社から業務委託でのEAPサポートを請け負いながら、個人でもHPを持ち、SNSでメンタルヘルスの情報を発信中です。暗闇を抜けた私が、今度は誰かの光となれたら

感じました。

「誰にも話せなかったことを話せて、少し楽になりました」と言う先生の言葉には、私自身も救われる思いがしました。この時間が、ただの相談ではなく、心が軽くなること。それこそが私が目指していることです。「次回も武田さんをお願いしたい」と言われたとき、胸がじんわりと温かくなりました。30分という短い時間でも「ほっとできる時間」になったんだ、そう実感した瞬間でした。

先生たちは日々多くの人に期待され、頼られています。でも、自分の思いを話せる場所はほとんどありません。だからこそ、私がつくる相談時間は、ただのカウンセリングではなく、「ほっとできる時間」でありたいのです。

そしてこの経験を、企業研修や職場支援にも活かしていきたい。働く人たちが安心して本音を話し、自分を取り戻せる場所をつくる。そんな場を提供し、心のケアとストレスマネジメントの支援を続けていきたいと考えています。

アウトリーチ支援も2年目。今年もまた、「ほっとできる時間」を届ける挑戦が始まりました。

：そんな思いはあります。また、6月には某有名女性誌の「1冊丸ごと人生相談」の季刊誌にも取り上げていただきました。

また、関東支部の役員として、会員皆様のカウンセリングのスキル向上にも力を入れています。今後は、自身の成長に加え、EAPメンタルヘルスカウンセラーの社会的認知と信頼性を高める活動を続けていきたいと考えています。カウンセリングをもっと身近に、利用しやすいものにしていくことが目標です。そのためには皆さんのお力添えが必要になっていきますので、ぜひ一緒に頑張っていきましょう！まだまだ未熟ではありますが、精一杯努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしく願います。



有名女性誌「CREA」の「1冊まるごと人生相談 特集」でRioとして紹介されました！



連日の学校訪問で大奮闘の武田さん。この夏には神津島にも訪問支援に。



関東支部の名物イベント「カウンセリングセッション」のひとコマ

CSチームの
役員メンバー

私にとってつらい悲しみや苦しみは幾度となく重なり、とても耐え難い時期がありました。自分の感情に対しても鈍感になっていったというか、感じることを拒否しているかのようでした。誰でもなく、自分で体験・体感したことは、より記憶され、活かされ、糧となっていくと信じています。どんなにつらい経験も、

わたしの軸

自らの体験を糧に、支え合う場づくりへ



どんなに悲しい出来事からも、自己成長するチカラを私たちは持っている。そう信じています。

私は2021年のEMCA全国支部創設時から関東支部の役員として、「カウンセリングセッション」という研修を企画・運営しています。2022年10月に第1回を開催した、あの日の緊張と感動は忘れません。以来、セッションはほぼ毎月開催され、私にとってライフワークとなっています。

「クライエント」と「カウンセラー」、どちらも体験することで見えてくるものがある。そこで得る「気づき」を大切にしています。この企画の原点です。そのために、カウンセラー同士が集うこの場を「心理的安全性」のある場にするのが、私たちの目指すところです。

自分の考えや想いを発言しても否定さ

優秀実践賞

生駒 伸江さん

Nobue IKOMA

全国支部会立ち上げより役員として、関東支部でカウンセリングセッションを展開。3年間、熱心に粘り強く育ててきた生駒さん。最近では、「気づきの広場」という新しい企画もスタートさせました。会員に心理的安全性に守られた語りや気づきの場を提供し、自己成長のサポートへの貢献が高く評価されました。

れない。なりたいたい自分と現実の自分に距離があつても相談できる。お互いにリスベクトを持ち、自己開示や意見交換が活発に行われ、失敗を恐れずに挑戦できる環境。アサーティブなコミュニケーションが行える場。それが、支部会であり、また、それが支部会から提供されるコンテンツであつたら、前を見て進んでいくための勇氣になると思っています。

現実には、理解されず萎縮して日々を過ごす人も多くいます。私も、そんな日々を過ごした経験があります。でも、いまは自分の話を聴いてもらえる場があります。心理的に安全な場があることが、何かに挑戦するときや、つらい現状から勇氣を持って抜け出そうとするときの大事な安心要素であり、迷いや不安の背中を押してくれるものであつたら、人はもっとと頑張れると思うのです。

想いをカタチに

この活動に支えられ、私は小学校PTA副会長を2年経験し、さらに「持続可能なPTA推進委員」という新しい立場で改革にも挑戦中です。地域や保護者、学校に関わる課題は山積みですが、支部活動で得た自己理解と自己肯定感が、私の軸となっています。

2025年からは支部会も第三期となり、新たに「気づきの広場」というコンテンツも始動しました。これは、セッション参加者の、カウンセリング演習で感じた課題や改善したい癖、検討した事例などを共有し、皆で学び合う場です。5月11日に開催した第1回では、多くの方から「とても有意義な時間だった」「学びが多く人脈も広がった」との声をいただき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今後は「カウンセリングセッション」と「気づきの広場」が相乗効果を生み、より深い学びと気づきの場になっていくことを目指しています。そして新たなコンテンツも検討しながら、想いをカタチにして運営していきたいと思っています。自分で体験・体感したことは、活かされ、糧となっていくと信じています。自己成長するチカラを私たちは持っている。そう信じています。この活動を通して、皆さんとお会いできることを今後とも楽しみにしております。

「誰か」になりたい

私は中小企業の経営者として日々の業務に取り組むなか、仲間の経営者たちが心身の不調に悩む姿を何度も目にしてきました。彼らは、社員や取引先に弱い姿を見せられず、責任感の重さから孤独を抱えがちです。「誰かがそばにいて心の重荷を軽くできないか」。その「誰か」になりたいという思いから、私はEAPメンタルヘルスカウンセラーの学びを始めました。

講義を受けるなかで、印象に残ったのは受講生たちの背景です。多くが、自らや身近な人の心の痛みを経験し、「誰かの支えになりたい」と真摯に学びに臨ん

地域に根ざした実践と事業を両輪で進めながら
心でつながる支援を広げていきたい。

でいました。私もその一人として、「共感の在り方」や「聴く姿勢」の大切さを考え直す機会となりました。

資格取得後、「聴く」という行為に対する意識が大きく変わりました。表面的な言葉にとどまらず、心の奥底にある思いや苦しみに寄り添う「傾聴」の姿勢を持つようになったのです。

コロナ禍には、新宿区社会福祉協議会と連携し、心の落ち込みを抱える高齢者への傾聴ボランティアを行いました。話を聴くだけで笑顔を取り戻す方々の姿や、発達障害の若者との関わりから、「話を聴いてもらいたい人」は、世代を問わずたくさんいるのだと痛感しました。私は「新宿という街を、人と人が心でつながる、温かい街にしていきたい」という

優秀実践賞

高橋 和裕さん

Kazuhiro TAKAHASHI

㈱メディアミックス代表。高橋さんは経営者としての従業員のメンタルヘルスケアだけでなく、地域での活動にも注力、世代を問わず幅広い支援に多彩なアプローチで取り組んでいます。また、EMCA支部会設立時から関東支部を支え、現在は支部長2期目。「聴く力」が架け橋となり、世界を広げ続けています。

意識を持つようになり、現在もその思いを胸にボランティアを続けています。

聴くことが可能性を広げる

自社の経営にもこの学びは活かされています。社員一人ひとりの声に耳を傾けることで、職場に安心感が生まれ、雰囲気も柔らかく、信頼に満ちたものへと変化した効果か、資格取得後は退職者が一人も出ていません。また、経営者仲間との会話でも、寄り添う姿勢が相手の心を

開ききつかけになることがありました。「自死を考えていたけれど、あなたの話を聞いて思いとどまった」と語ってくれたことは忘れられない出来事です。アドバイスではなく、ただ寄り添い、話を聴くという姿勢が、人の命や選択に深く関

わることを実感しました。

現在も新宿区社会福祉協議会を通じ、メンタル不調の方の支援、部屋の片付け、認知症サポート、若者の就労支援など多岐にわたるボランティア活動を続けています。また、高齢者向けに「片付け・清掃・認知症対策セミナー」も開催し、自立支援と予防啓発にも取り組んでいます。生活に関する幅広い相談にも対応しており、遺品整理や住宅修繕、相続相談などには、私のファイナンシャルプランナーとしての知見やネットワークも活かしています。

こうした活動の延長線上で、ボランティアが仕事へと自然に発展することもあります。たとえば、遺品整理や清掃業務の依頼をいただいたり、福祉用具貸与・販売事業を立ち上げた際には、ケアマネジャーとの連携が生まれ、現場ニーズに即したサービス提供が可能となりました。EAPメンタルヘルスカウンセラーの視点を軸に、「目の前の一人に誠実に向き合う」ことで、信頼が信頼を呼ぶ好循環が生まれているのです。

今後も、地域での実践と事業を両輪でバランスよく進めながら、心でつながる支援の輪を広げていきたいと考えています。



地域で高齢者にお掃除セミナーを開催。幅広い年代をサポートする頼もしい存在。



今回の授賞式にて

2022年の活動コンテストより。受賞者皆さんと。

ここからは、2022年以降の変化や学びが役に立った具体事例についてです。まず、変化ですが、自分の所属している課で初めて休職者が出たことと、自分が管理職になったことです。私は人事部で人材育成を担当しています。メンバーは5名で、2023年の同時期に2名（B・Cさん）の休職者が出てしまいました。部署で休職者が出たのは初めてで、当時はまだ管理職ではなかったので詳しい情報は知ることができませんでした。ですが、私にできることをやろうと決めていたので、そのときをじつと待ちました。すると休職中のBさんから私宛にメールが届いたのです。私は仕事のことは触れずに「Bさんの隣の駅にスイーツの美味しいお店があるのを

変化や学び

人事として、カウンセラーとして、一人の人として、

これからも歩みを止めずに一歩一歩進んでいきたい。

知っていますか？ お天気が良い日にお散歩がてら行ってみてください」とだけメールしました。Bさんは約3カ月で復職。少して「あのときのメールがきっかけで、電車に乗れるようになった。本当に嬉しかったです。ありがとうございました」と話してくれました。そんなBさんも、メンタルヘルスの勉強を始めています。

Cさんとは以前よりコミュニケーションを良くとれていました。彼女の休職中に私は管理職になり、上司から情報を共有してもらい、産業医面談も同席するようになりました。復職に向け共に準備を進め、1年程かかりましたが無事に復職。復職後は産業医と連携しながら勤務を安定させ、少しずつ業務のステップアップを図り、復職後1年が経ちました。とはいえ、配慮による他メンバーへの負荷や感情面でのケアも必要となり、私自身も学びを深める必要を感じ、メンタルヘルスマネジメント検定2種の勉強を始めたのです。管理職としての経験と学びがリンクし、実務と知識が相互に補完し合う形で理解が深まり、スムーズに合格できました。これを自信に変えて、その後はチーム全体のメンタルヘルスへの理解を促進するよう努めています。

誰かの希望になれるよう

今後の夢は、「気軽に相談する・聴く

eMC資格のご褒美

最近、メンタルヘルスカウンセラーの資格を持つていて良かったと思える出来事がありました。私は新卒採用も担当しているのですが、先日ある持病を抱えた学生から内々定を承諾するにあたっての不安を打ち明けられました。そこで、私は丁寧に話を聴き、入社後にどのようなサポートができるか、また実際にこれまでに取り組んできたことについてじっくり時間をかけて伝えました。そして、「余談ですが私はEAPメンタルヘルスカウンセラーの資格を取得して、今もカウンセリングの実習でスキルアップを継続している」と伝えました。すると、翌日の学生から「受験する予定だった他社の試験を断り、内々定を承諾する」と連絡があったと部下から報告を受けました。承諾の理由のひとつに、「カウンセラーの資格を持った方がいることが何より安心材料」と言っていたそうです。思わず「やったー！」と声を上げてしまったほど、嬉しい出来事でした。

今後の夢は、「気軽に相談する・聴く

自分への約束

「EAPメンタルヘルスカウンセラー活動コンテスト2022」で優秀賞をいただいてから約3年、あのとき宣言した「決意」のうち、どの程度「実行」できているか、どのような「変化」があったかを振り返ってみます。私はこんなふうに言いました。

「Aさんだけでなく、困っている社員や周りの力になれるように、ストレスマネジメント研修の実施や、つらさを分かち合えるグループファシリテーション等の仕組みづくり、そして社内支援者の輪を広げる草の根運動など、まだまだやりたいことは尽きません。今後も一生学

ささやかな言葉が誰かの希望になる。

び続ける姿勢でEAPカウンセラーとして、また、ひとりの人間として、次の夢に向かって前進し続ける決意です」

あのときサポートしていた悩めるAさんですが、2年程前に新たな活躍の場を求め転職してきました。当初は驚きもありましたが、新たな環境に飛び込む気持ちになったことは、独り立ちできるようになった証であり、支援の卒業のサインだと理解しました。それまでの頑張りを読んで、心からのエールを送りました。

次にストレスマネジメント研修ですが、新入社員に対し「セルフケアの重要性」と「カウンセリング」のハードルを下げることを目的として、4年継続実施しています。これにより、自分のことを

👑 特別賞

木暮 枝里さん

Eri KOGURE

鉄道業界の企業で人事の仕事を担う木暮さんは、コロナ禍でも社内のメンタルケアを強く推進してきました。メンタルヘルスカウンセラーとしての「理想と実務」のバランスが見事である点が高く評価され、特別賞を受賞しました。この3年間、木暮さんのしてきた実践とは？



オフィスで人事のお仕事中的木暮さん。

まっとうおり、2023年は「成長を実感したとき」。これを見た瞬間「これは私の学びを発表するチャンスだ！」と感じ、思いの丈を800文字に込めました。すると見事に部署の代表に選出され、全社に向け発表することができたのです。

その反響は大きく、役員からは「そんな資格を持っているとは知らなかった。研修をやってみては？」、他部署や他の組織からは「私も学んでみたい。話を聞かせて！」「私の相談にも乗って」等の声をかけてもらいました。これがきっかけで、メンタルヘルスの勉強を始めた社員もおり、同志が増える喜びと心強さを感じました。休憩時間にお互いの学びを語り合ったりロープレをしたりと、良い刺激を与え合っています。今後も仲間を増やしていくために、情報を発信していきたいと考えています。

こんなふうに2022年の決意は、ほぼ実行できたかなと考えています。自己評価としては90点！残り10点はEMCAの研修をまだ十分に受けられていないので、2025年の取り組みとしたいと思っています。

ことができる社内の仕組み」を作ることです。昨今、メンタル不調による休職や、よりよい条件や環境を求めて転職する人が増加する傾向にあり、当社も例外ではないため、固定の相談窓口だけではなく、「管理職」と「一般職」のマッチングアプリのような仕組みを作りたいと考えています。これにより、自分の直属の上司だけではなく、組織を越えた相談相手を見つけることで、新たな気づきに繋げられるのではと考えています。

また、管理職の立場からは、よい人材の発見にも繋がるという裏テーマも兼ね備えています。いずれにしても、相談に乗るためには、「面談スキル強化研修」が必須だと思うので、研修の企画・実行から着手したいと考えています。このような仕組みが出来上がることで、社内コミュニケーションを促し、人材定着、人材育成が図れると考えています。まずは、スモールスタートで自分の属している本部内約80名で始められるよう企画したい。これで課題などを抽出し、次は本社内約700名で実施、最終的には支店を巻き込んだ全社約1400名で実施したいと考えています。この夢の実現のために、私自身学びを継続し、知識とスキルのブラッシュアップを図りながら、社内支援の輪を広げる草の根運動を継続していく決意です。誰かの希望になれるよう、私はこれからも一歩一歩、進み続けます。

カウンセラーとして 活躍する際に 役立つこととは？

今回はリカレントメンタルヘルススクールの専任講師である
水口明子先生より、皆さんが将来、カウンセラーのお仕事につくための
準備をしておくで役立つと思うことを、ご自身の経験より語っていただきました。



経験知(暗黙知)と知識知(形式知)を融合し、ナレッジ化することが大切

受講生の方から「受講は終了して、資格も取得したけれど、今の仕事はカウンセリング業務ではないし、今後本当にカウンセラーとしての仕事につけるのか不安です。」こんなご質問をいただくことがあります。カウンセリングを勉強しはじめた当時の私も、同じ不安を抱えていたことを覚えています。

私は大学を卒業後、20年以上サービス業に従事し、45歳の時に精神保健や心理学を学び始め、資格を取得しました。その後メンタルクリニックや、就労支援事業所、大学でのカウンセリングを経験してまいりました。

今現在は、企業の労働者へのカウンセリングや、ストレスチェックの集団分析結果のコンサルティングや、企業研修の講師も行っていきます。

昨今では、大企業のみならず、様々な企業規模や業種でカウンセリングを導入したり、研修を行っています。研修の内容も、メンタルヘルスはもちろんのこと、レジリエンス、マインドフルネス、心理的安全性、コミュニケーションスキル、アンガーマネジメントなどが非常に増えてきました。そこで私が感じたことは、資格取得後の対人援

助職の経験はもちろんですが、20年以上従事してきたサービス業での経験、それは成功体験だけではなく、失敗した経験も大変役に立っているということです。

ただし、経験知(暗黙知)は、あくまで個人の経験や勘に対する依存度が高く、言語化が困難な知識でもあるため、第三者には伝わりづらいともいえるでしょう。

よって、その経験をいかに、学んだ理論(知識知)と結びつけて、わかりやすく言語化したり、図式化しておくかが重要なのだということでした。

皆さんはすでに心理学や、メンタルヘルス、カウンセリング技術の理論は学んでこられました。いわゆる知識知(形式知)といわれるものです。そして皆様には、社会人としてのこれまでの人生経験、経験知(暗黙知)があります。

今はまだカウンセラーとして、直接お仕事をされていない方もいるかと思いますが、これからできることは、日常生活の中で、経験したことを理論と結びつけて、言語化をしておくこと。これが、今後カウンセラーになった時に、あるいは、教える側に立った時に、役立つと思うのです。



リカレントメンタルヘルススクール
専任講師

水口 明子 先生

Akiko MIZUGUCHI

精神保健福祉士/公認心理師。
20年以上サービス業に従事、その後、精神保健福祉士や公認心理師を取得し、対人援助職として活動。2019年にハビットマインドKOKOLを開業。医療、福祉、学校、産業分野においての幅広い経験をもとに、企業のカウンセリング業務や、ビジネス研修、ストレスチェックのコンサルティングを行っている。

メンタルとキャリアの統合的支援ができるカウンセラーへのスキルアップを目指す方へ

→ **キャリアコンサルタント国家資格説明会、個別相談会** **開催中**

国家資格の最新情報や、学費の最大80%(最大約39万円)が戻ってくる教育訓練給付金制度(専門実践)の詳細、eMC資格取得者がキャリアのスキルや資格を習得するメリットなども詳しくわかります。

参加費無料

お電話またはWebサイトよりご予約を。



**資料請求
セミナー予約
受付中**

リカレント キャリアデザインスクール

0120-67-2048

電話受付 月～金 10:00～21:30
土日祝 10:00～18:30

新宿 銀座 東京 池袋 渋谷 上野 立川 船橋
大宮 札幌 仙台 金沢 横浜 町田 静岡 浜松
名古屋 大阪 心斎橋 天王寺 京都 神戸 福岡 オンライン

リカレントキャリアデザインスクール 検索

EMCA®

EAP Mental health Counseling Association

EMCA機関誌 Cor No.25

2025年7月25日 発行 第9巻第1号 通巻第25号

発行人：松田直之 編集：BEYOND

制作：株式会社ワックデザイン 表紙ロゴデザイン：多田千絵 撮影：渡辺智宏

発行：特定非営利活動法人 EAPメンタルヘルスカウンセリング協会 (EMCA)

<https://www.emca.or.jp/>

本書の全部または一部を無断で複製複製(コピー)することを禁じます。